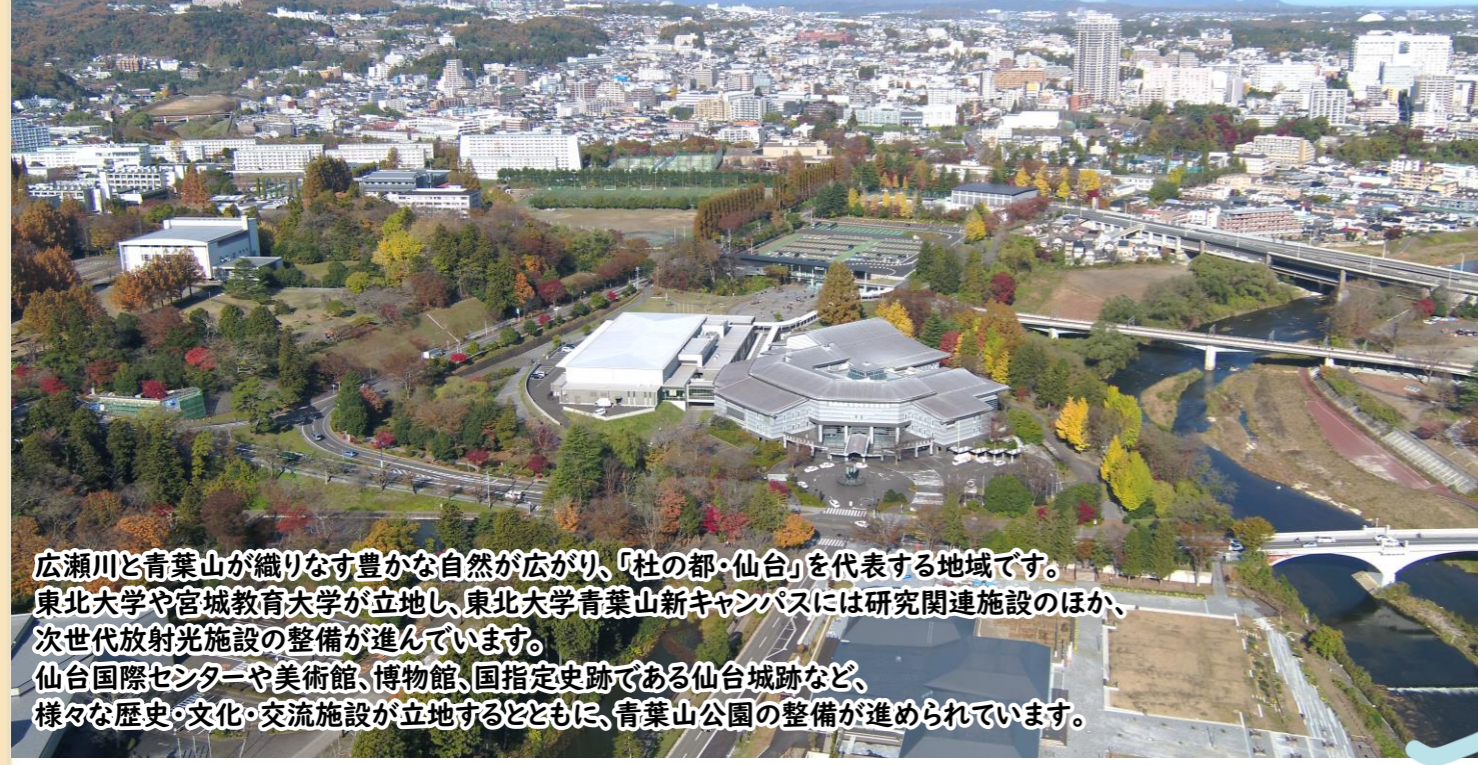


青葉山・川内・国際センター駅 周辺地区

地下鉄沿線まちづくりの推進プラン
地下鉄がもたらすまちづくりの推進プラン

東西線沿線まちづくりプラン



広瀬川と青葉山が織りなす豊かな自然が広がり、「杜の都・仙台」を代表する地域です。東北大学や宮城教育大学が立地し、東北大学青葉山新キャンパスには研究関連施設のほか、次世代放射光施設の整備が進んでいます。仙台国際センターや美術館、博物館、国指定史跡である仙台城跡など、様々な歴史・文化・交流施設が立地するとともに、青葉山公園の整備が進められています。

まちのトピックス

- 1 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設**
 令和5年7月に策定した基本構想をもとに、整備方針をより具体化する基本計画の検討を進めており、令和6年度の策定を目指しています。
- 2 次世代放射光施設ナノテラス運用開始**
 国内外からの研究開発施設や高度人材の集積、研究を支えるすそ野産業の成長など、大きな経済波及効果が期待されている次世代放射光施設ナノテラスの運用開始が令和6年4月に予定されています。
- 3 サイエンスパークの整備**
 ナノテラス西側の4万㎡の敷地で、産学官が結集した社会価値創造を行う共創の場として、オープンイノベーションとスタートアップの拠点機能をもつサイエンスパーク型研究開発拠点の整備に向けた検討が進んでいます。
- 4 青葉山公園の整備**
 全国都市緑化フェアが令和5年6月18日に54日間の会期を経て無事閉幕しました。市民の皆さまとともに作りあげたこのフェアをレガシーとして、新たな「百年の杜づくり」へとつなげていきます。
- 5 仙台市博物館と宮城県美術館のリニューアル**
 施設や設備の老朽化にともなう改修工事が進められています。休館中も様々な活動が行われており、仙台市博物館は令和6年度のオープン、宮城県美術館は令和7年度のオープンが予定されています。

地区の魅力・資源



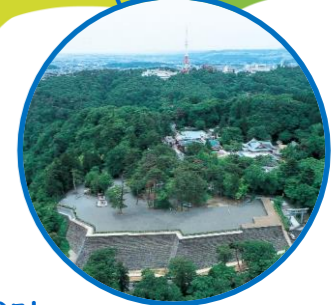
東北大学
 1907（明治40）年に日本で3番目の帝国大学として創設され、世界的な研究者を輩出するなど、数多くの大学が立地する学都・仙台の中心的な役割を担っています。



仙台国際センター
 会議棟と展示棟からなり、大規模催事の開催も可能な施設であることから、仙台のコンベンション・学術文化振興の拠点となっています。2015（平成27）年には、第3回国連防災世界会議が開催され、国内外から6,500人以上が出席しました。



仙台市博物館
 仙台城三の丸跡に位置し、「支倉常長像」などユネスコ記憶遺産3点を含む国宝「慶長遣欧使節関係資料」をはじめ、江戸時代を中心とする仙台の歴史・文化・美術工芸資料約10万点を収蔵しています。



仙台城跡
 仙台藩祖伊達政宗公の命により1602（慶長7）年に築造された伊達家の居住跡であり、国の指定史跡となっています。本丸跡は、仙台の中心部を一望できるスポットにもなっています。

将来のまちの姿

仙台が誇る歴史・文化・自然とともに、未来を創造し発信する、国際学術文化交流拠点

東北大学青葉山新キャンパスで整備が進む次世代放射光施設や、仙台の歴史を象徴する仙台北城跡、「杜の都」のシンボルとなる青葉山公園、文化芸術の創造と発信の新たな拠点となる音楽ホールの整備等により、本地区の魅力さをさらに高め、国内外から多くの人が集まるエリアとしていきます。また、多くの自然や大学キャンパスと調和した良好な居住環境を維持し、快適に暮らせるまちの形成を目指します。



該当する施策展開の方向性

- 方向性① 持続可能で日常生活を安全安心に過ごせる市街地環境の形成
- 方向性② 駅を中心に便利で移動しやすい住宅地や交通環境の形成
- 方向性⑤ 研究・開発施設や企業立地の促進
- 方向性⑥ 産学官金連携による地域産業の活性化
- 方向性⑧ 国内外からの集客・交流を促進する学術文化交流拠点の機能強化
- 方向性⑨ 沿線の多様な資源に触れることができる空間の形成

取り組み施策

- 市が市民の取り組みを支援・誘導する施策
- 市が事業者の取り組みを支援・誘導する施策
- 市が実施・検討する施策

- 短期 2023 (令和5) 年度までに具体的な取り組みや検討を行う施策
- 中期 2026 (令和8) 年度までに具体的な取り組みや検討を行う施策
- 長期 2030 (令和12) 年度までに具体的な取り組みや検討を行う施策
- 継続 計画期間中、継続して取り組む施策

学術文化交流拠点の機能強化

- 1 **継続** 仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョンを踏まえ、**エリアの魅力や青葉山エリアと都心との回遊性の向上に向けた施策を推進**します。
- 2 **継続** 国際センター駅周辺地区と都心地区の連携が図られるよう、地区間の回遊性向上につながる**交通機能の確保や歩行者空間等の創出**を検討します。
- 3 **継続** 歴史と趣を感じる城郭らしい景観と、来訪者が学び楽しむことができる環境を実現するため、**仙台北城跡の史跡整備**を計画的に進めるとともに、本市の新たなシンボルとして復元が期待される**大手門**については、その整備に向けた発掘調査を実施します。
- 4 **継続** 仙台の礎である仙台北城跡を含む青葉山と広瀬川に囲まれた区域について、藩政時代からの歴史・文化資産や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた人が親しむことのできる「杜の都」のシンボルとなる**青葉山公園の整備**を進めます。
- 5 **継続** 青葉山交流広場においては、文化芸術の総合拠点となる**音楽ホール**と、防災環境都市・仙台の災害文化創造の拠点となる**中心部震災メモリアル拠点**の複合施設の整備を推進します。
- 6 **継続** 本市のMICE開催の中核施設である仙台国際センター会議棟の大規模改修を行うとともに、休館中に継続的なMICEが推進されるよう、分散開催時の会場間の移動に対する助成などを行い、**コンベンション誘致を強化**します。
- 7 **継続** 市民や来訪者が仙台の歴史や文化に親しみ、学べるよう、博物館や仙台北城跡を中心とした**ガイドボランティア** (NPO法人仙台北城ガイドボランティア会、博物館ガイド三の丸会、伊達武将隊) による案内などの取り組みを支援します。

公共交通の利用促進

- 8 **継続** 大学生の公共交通利用を促進するため、**大学と連携して学生向け交通情報マップの作成支援や周知広報**等を継続していきます。



エリアマネジメントによる取り組み支援

- 9 **継続** 東北大学によるキャンパス周辺地域との一体的なまちづくりや散策ルートの整備、附属図書館・総合学術博物館・植物園などの大学施設の一般開放などを通じた、市民にとって身近で愛される、**アカデミックパークとしての大学づくり**を支援します。

地域産業の活性化

- 10 **継続** 次世代放射光施設ナノテラスの立地を生かしたリサーチコンプレックス形成に向けて、関係機関と連携を図るとともに、企業立地促進助成制度及び賃料補助制度等を活用し、**研究開発拠点や関連企業の立地**を支援します。

継続

- 11 **継続** 仙台市が保有するナノテラス利用権を「NanoTerasuシェアリング2000」と銘打ち、企業等に適切に配分することで、**ナノテラス利用を促進し、イノベーション創出**に繋がります。

地域の活性化

- 12 **継続** 多目的スペースや芝生が広がる屋外テラスからなる**国際センター駅舎上部施設 (青葉の風テラス)**において、東西線の利用促進とともに、施設のさらなる賑わいの創出を図るため、民間活力により運営します。

駅周辺にふさわしい土地利用や施設立地の誘導

- 13 **中期** **川内駅北側地区**において、周辺環境と調和した集合住宅の整備による高度利用や暮らしに必要な生活サービス施設 (スーパー、飲食店、医療施設など) の立地を誘導する取り組みについて検討します。

地域資源の魅力・価値向上

- 14 **継続** 幼児から小学生まで楽しみながら交通ルールを学べる公園として、長年市民に親しまれてきた**三居沢交通公園**について、老朽化も進んでいることから、交通公園としてのニーズなども踏まえながら今後のあり方を検討します。

災害に強い地域づくり

- 15 **継続** 地域住民が安全・安心に暮らせるよう、宅地擁壁の専門家派遣制度や安全対策工事に係る助成金制度により、**老朽化した宅地擁壁の作り替え**を支援します。
※宅地擁壁の支援制度 (専門家派遣制度・安全対策工事に係る助成金制度) は地下鉄沿線以外の地域でも活用できます。詳しくは市ホームページなどでご確認ください。

脱炭素の推進

- 16 **継続** 東北大学青葉山新キャンパスに立地している「**せんだい環境学習館たまきさんサロン**」では、多様なテーマのサロン講座のほか、図書や環境学習教材などを活用した児童生徒の学習や環境団体の活動の場の提供など、環境学習の拠点施設としての機能の充実を図ります。